

みやまの風

令和5年5月1日(月)発行

園長 津田 将美

初めての園庭で

先日初めて、園庭に降りることができました。子どもたちは、すでにそこで思い思いの遊びを楽しんでいました。主な遊びは、「ハンターごっこ」という鬼遊びと泥だんご作りです。

「園長先生、ハンターごっこやる？」

園庭に入ると、すぐに一人の子が声をかけてくれました。初めての園庭だったのですが、素直に受け入れられたようで、すごく嬉しかったです。さっそくバトンを渡されて、初めてのハンターごっこです。

ハンターは赤いバトンを持って追いかけます。タッチされるとハンターになり、赤いバトンと交換します。私も赤いバトンを渡されないように、一生懸命ハンターの追撃をかわしていました。大人の意地です。そう簡単につかまるわけにはいきません。

心地よい疲れを感じ始めた時、ハンターが別の子をつかまえに、遠くに離れていきました。その時、一生懸命泥だんごを作っている子が目に入り、その力作を見せてもらいました。

「泥だんご、じょうずにできるね。磨くとピカピカになるんだよね。」

なんて話をしていると、知らぬ間に小さなハンターが背後から忍び寄っていました。

「タッチ！！」

「うわっ、やられた！！」

つかまえた子の得意そうな顔を見ていると、こちらまで嬉しくなります。そして今度は、私が初めてのハンターです。子どもたちを追いかけながら、子どもも教師も共に楽しく活動する園庭の雰囲気をも十分に満喫しました。

帰りの会では、絵本の読み聞かせが終わった後に、一人ひとりがその日の楽しかったことを発表します。異年齢の子どもたちが、それぞれに関わり合いながら、友だちのその日感じたこと、がんばったことを共有し、共感し、心の交流をしていました。教師はそれをあたたかい目で見守り、一人ひとりの感動や思いが仲間の心に入り込んでいくように子どもたちに返していきます。

年上の子は、年下の子のお手本となり、年下の子に寄り添った行動をすることで年上の子もまた成長していきます。正に少人数の良さがそこに凝縮されているようでした。

